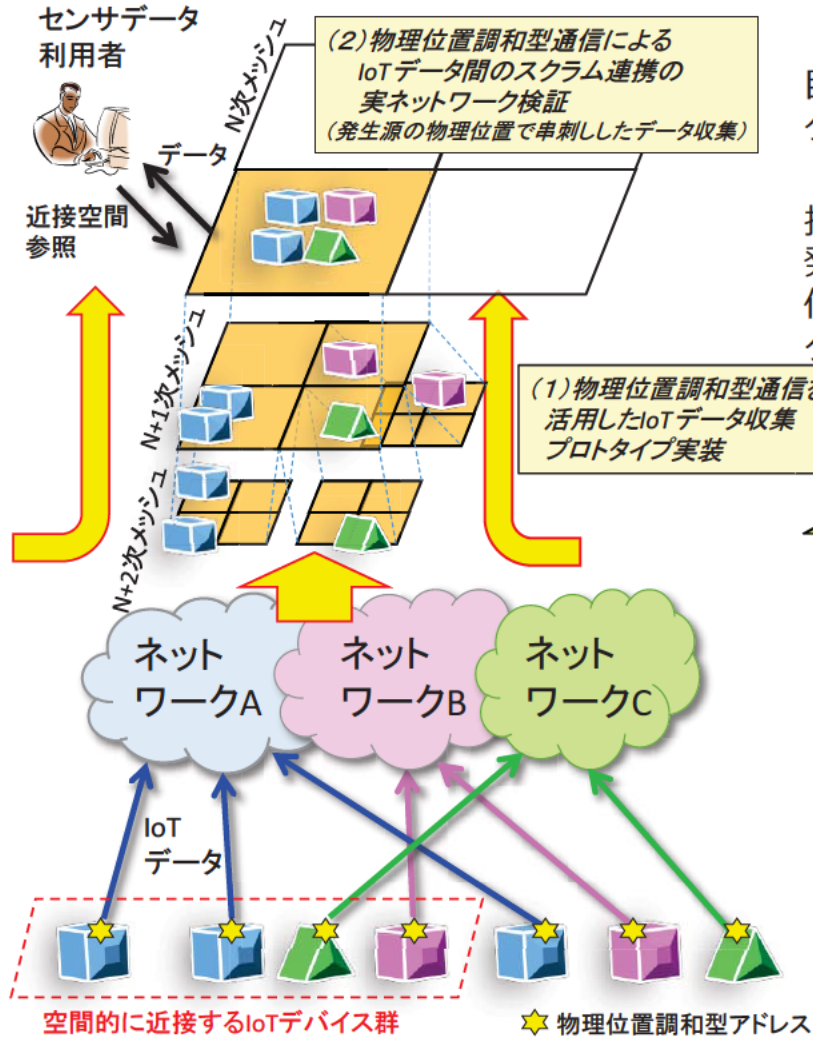


近接空間内IoTデータのスクラム連携を実現する通信技術の研究開発

【研究代表者】中村勝一（株式会社iD）

【参画研究機関】九州工業大学、東京大学、福岡工業大学 【研究開発期間】平成29年度（1年間）



異種IoTデバイスが送出するデータ間の連携を促進する目的で、空間的に近傍に位置するIoTデバイスの送出データの集約・多重・協調（スクラム連携）が重要となる。

本研究開発課題では、IoTデータのスクラム連携の要素技術として「物理位置調和型通信」のプロトタイプを開発し、実ネットワーク実験を通じて「物理位置調和型通信」およびそれにより基づく「近接空間内IoTデータのスクラム連携」の実現性検証を行う。

【近接空間内IoTデータのスクラム連携】

